

1998年度

日本フランス語フランス文学会

秋季大会

研究発表要旨

主催校 大阪大学

目 次

			頁
第1分科会 語学（共通教育A棟 A104）			
1	名詞句内からの前置詞句の前置について	京都産業大学	平塚 徹 1
2	À [DANS] + 場所の名詞における、前置詞 À と DANS の交代について	大妻女子大学	松田 孝江 2
3	オック語リムーザン方言についての一考察	神戸松蔭女子学院大学（非常勤）	前川 真明子 3
第2分科会 19世紀(1)（共通教育A棟 A301）			
1	ミュッセと象徴の意味	高岡法科大学	吉田 泉 4
2	ヴェルレーヌ『雅な宴』における「幸福」	九州産業大学（非常勤）	岡 由美子 5
3	アルチュール・ランボーの『後期韻文詩』に於ける否定の詩学—「黄金時代」と«Entends comme brame...»をめぐって—	神戸大学（非常勤）	井村 まなみ 6
第3分科会 20世紀(1)（共通教育A棟 A312）			
1	Sur le modèle des relations logiques dans la langue française	金蘭短期大学 大阪大学（博士課程）	三石 博行 7 Eddy Van Drom
2	ソシュールとラカンにおける言語	成城大学	末永 朱胤 8
3	J. ラカンにおける「シニフィアン連鎖」の概念と「同一化」の問題系	電気通信大学	原 和之 9
第4分科会 20世紀(2)（共通教育A棟 A302）			
1	マルグリット・デュラスにおける愛と戦争—『ヒロシマ・私の恋人』をめぐって	神戸女学院大学（非常勤）	塩谷 真由美 10
2	ボリス・ヴィアン『日々の泡』の構造—時間と空間をめぐつて—	大阪大学（博士課程）	深川 聰子 11
3	カミュにおける文体の探求—テクストデータベースに基く分析の試み—	弘前大学	奈藏 正之 12
第5分科会 18世紀（共通教育A棟 A301）			
1	<i>La Religieuse</i> : 話者のリアリズム		稻垣 正久 13
2	「事実」と「証言」—ベルジエ神父のルソー批判—	京都国立博物館	中川 久定 14
第6分科会 19世紀(2)（共通教育A棟 A302）			
1	ラコルデールと自由の概念	大阪大学（博士課程）	岡田 純子 15
2	象徴・共鳴・神話—フローベール『ヘロディアス』における「聖餐」の成立—	慶應義塾大学（非常勤）	大鏡 敏子 16
第7分科会 20世紀(3)（共通教育A棟 A312）			
1	ジョルジュ・バタイユ『空の青』と『社会批評』にみる理論とフィクション	大阪市立大学（博士課程）	小野 佳奈子 17
2	ジョルジュ・バタイユの思想における時間の問題	東北大大学（博士課程）	和田 康 18
第8分科会 20世紀(4)（共通教育A棟 A104）			
1	アンリ・ミショーの後期作品における「夢想」の問題	明治大学（非常勤）	田母神 顯二郎 19
2	Poésie années 90 : Pierre Alferi "Kub Or"	大阪大学	Agnès Disson 20

Sur le modèle des relations logiques dans la langue française

金蘭短期大学 三石博行 大阪大学 Eddy VANDROM

1、論理的表現の分類

前回の研究発表で、フランス語を形成している Langue の構造は Modalités、Relations Logiques と Discours Explicatif によって構成されていることを示した。更に Relations Logiques では 14 の異なる論理的表現形態によって構築されている。それらを以下の表に示す。

Relations Logiques		
1	Relations de causalité	Cause
		Conséquence
2	Relations d'ensemble	Restriction
		Exclusion
		Exception
		Sélection
		Extension
		Inclusion
		Addition
		Opposition simple
		Concession
4	Relations de comparaison	Comparaison
		Corrélation
		Proportion
		Équivalence
		Resssemblance
5	Relations d'intention	Destination
		But
6	Relations imaginaires	Condition
		Supposition
7	Relations instrumentales	Instrument
		Manière
8	Relations de changement	Transformation
9	Relations quantitatives indénombrables	Intensité
		Degré
		Indénombrable
10	Relations temporelles	Anteriorité
		Simultanéité
		Postériorité
		Point de départ
		Période
		Point d'arrivée
		Fréquence
11	Relations spatiales	Origine
		Situation
		Direction
		Passage
		Intervalle
12	Relations qualitatives	Processus
		Etats
13	Relations quantitatives dénombrables	Indéterminées
		Déterminées
14	Relations existentielle	Non réalisation
		Réalisation

2、論理的表現のマトリックス構造

論理的表現とは、文と文、もしくは言葉と言葉のある特定の関係を作り出す機能を持つものである。その関係の選択は文の背景に依拠するものであり、それを Modalités と呼んだ。また、それらの表現が配置され、そこに文の流れ、つまり文脈が形成される。それを Discours Explicatif と呼んだ。この我々の提案した言語モデルは、文法学的分析と意味論的分析の両立を目指すものである。例えば、前記の表の 1 から 8 までの要素は意味論的な視点に立って表現方法を分類し、それらを文法的な説明でさらに展開したものである。この分類はすでに今まで語られてきた。ここで示す 9 から 14 までの要素は文法学的な視点で表現方法を分類し、それを逆に意味論的説明で展開したものであり、新たな分類を提案するものである。実際の文や言葉の形成は、いくつかの異なる表現形態の複合体として、つまり幾つかの表現方法の組み合わせによって構築される。言いかえれば、表現方法の要素が、ある言語学的で特殊なバラメータによって構築されたマトリックスを取ると仮定される。この構造に関する我々のモデルを提案する。例えば、Relations Existentielle の中には Non réalisation と Réalisation の二つの要素があり、一方を N とし他方を R とする。また、Relations temporelles は 7 つの要素で構成されている。その中の Point d'arrivée (P) と Fréquence (F) の二つの要素が結びつくことによって、下記に示す様な具体的な表現形態が生み出される。

$$\begin{pmatrix} R \\ N \end{pmatrix} \otimes \begin{pmatrix} P \\ F \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} R.P \\ N.P \end{pmatrix} \equiv \begin{pmatrix} \text{jusqu'à} \\ \text{tous les jours} \\ \text{ne ... plus} \\ \text{jamais} \end{pmatrix}$$

3、問題提起

ここで我々はこのマトリックスモデルの演算子 \otimes の性質について議論しなければならない。また、前回提起した Parole 構造との関係に関しても議論しなければならない。さらにまた精神構造としての Parole モデルと論理的表現に関する Langue モデルの性質の違いや、その定義付けも明確にする必要がある。以上の問題提起を根底に置きながらも、今後は、表現方法の分類とその意味論的解釈や文法的解釈を具体的に検討していく予定である。